

福田海本部境内案内

福田海は明治三十三年聖徳太子、役ノ行者、僧行基の法統に立つ中山通幽師によって開創され、比叡山より頂いた「不滅の燈明」をかかげ、陰徳積善をモットーとする宗教団体であります。この所は平家物語で有名な有木別所の跡地であり、高麗寺、青蓮寺等の寺跡でもあります。

境内建造物

燈明堂 不滅の常燈明を奉祀する。

護摩堂 本尊は虚空蔵菩薩、脇士は弥勒、役ノ行者

易塚 易を祭り、凶を吉に変じ禍を福に転ずる道場

「鎮遠」の鐘 「鎮遠」は日清戦争時の明治二十八年、日本海軍と戦った中国(当時は清国)の軍艦名。海没した艦霊を弔い、現在、不動尊として祀られている。

役の行者 向かつて右の石像。奈良時代、大峰山を開いた修験道の開祖。

理源大師 向かつて左の石像。修験道の中興の祖(八三二―九〇九)で、醍醐寺の開祖。

仏舍利塔 釈尊を祀る。(前奈良国立博物館長 故石田茂作先生設計)

根本中堂 (四十九力院) 中堂は水神を祀る。四十九力院は幽界供養弥勒出現道場

養老本堂 先祖を供養する。青蓮寺の本尊十一面観世音を祀る。

勝鬘夫人像 (慶長八年多田朝臣雪津郎の作) 奉祭

英霊堂 英霊奉祭 三千体の観音像を祀る。

鼻ぐり塚 牛の鼻ぐりを淨祭して畜類を供養する塚。(現在七百万個) 本尊は馬頭観世音

長床 風神を祀る。曆祭を修する場所

お大師堂 本尊は大師座像、かたわらに藤原成親卿の位牌を祀る。

百万塔蔵 百万塔は木造小百万塔を三万個祀る。

福田海本部における行事

曆祭 一月十五日前後の日曜日

(一年三百六十五日の厄をのぞく曆の祭り)

畜魂祭 四月の第三日曜日(鼻ぐりを通じて畜類追福を祈る)

近辺の古蹟

大納言藤原成親卿の墓及び高麗寺仁王門跡地(県指定史跡)

ここから登り五百メートル山上に大納言藤原成親卿の墓があります。こ

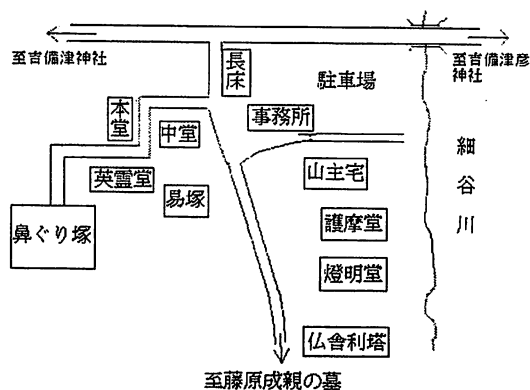
こはもと高麗寺有木別所の址で、成親はかの鹿ヶ谷の謀議にやぶれ、この地に配流の身となりあえない最期を遂げた哀しき源平の遺跡であります。江戸末期の万葉歌人平賀元義は

あたらしこの成親がごと よき臣を

有木の山の うもれ木にして

と歌っております。

境内案内図



宗教法人

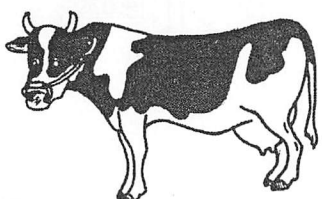
福田海本部

岡山市北区吉備津七九五

電話 (〇八六) 二八七―三〇〇八

鼻ぐり塚について

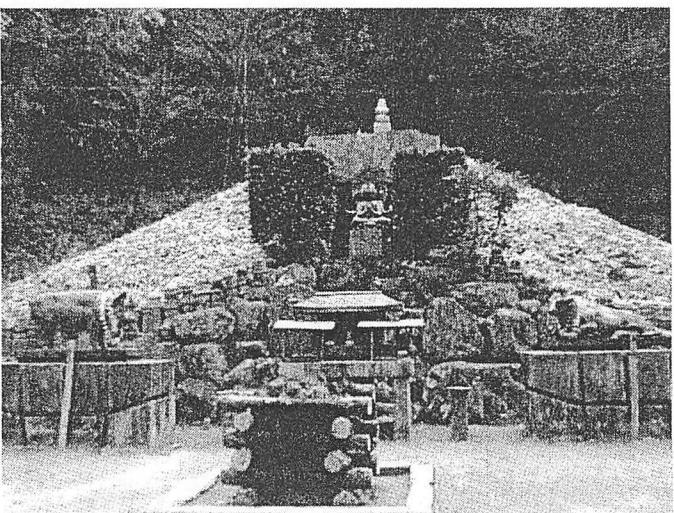
かつてわが国の農村では、牛を飼い、田畑の耕作の労役等に使用していました。牛は家族の一員のように大切に育てられました。その際、牛の鼻に穴を穿ち、鼻輪（鼻環、鼻ぐり）をはめ、それに縄を結んで使役していました。やがて牛は飼い主の手をはなれて売りに出され、解体されて肉となり皮となりその最期を迎えます。牛はその一生のすべてを人間のために尽してきたといえましょう。



こうした牛の大神に報いるため、死後残された鼻輪（鼻環、鼻ぐり）を牛の唯一の形見として集めて浄祭することを福田海開祖中山通幽師が発願されたのであります。篤信の方々のお力により全国から鼻

輪は収集され、現在もその事業は続いています。

鼻ぐり塚はもと円墳であり、その墳丘上に鼻輪を積んでいます。石室内には真鍮製の鼻輪を溶かして作った阿弥陀の宝号を刻印した金属板が安置されています。また、正面には馬頭観世音菩薩を祀っています。昭和初年に塚が建立されて以来、現在までにおさめられた鼻輪の数は七百万を超え、現在も畜類供養のため、春、畜魂祭を行っており、年間数万個の鼻輪が塚におさめられています。



護摩木のお供え

護摩木は鼻ぐり塚前にお供えください。
毎週日曜日、お供え頂きました護摩木にて、護摩を奉修し、畜魂追福という陰徳積善のご縁につかれた皆様方の

家内円満 夫婦和合 良縁成就 子孫繁栄 身体健康 病氣平癒 交通安全

をご祈念いたしております。